

学校だより



ひの

第 1 2 号  
令和 8 年 1 月 8 日  
大東市立氷野小学校  
校長 木村 大

## 3学期は「挑戦」の学期に！

新しい年が始まりました。新しい年を迎え気持ちを新たにするとともに、今日から3学期が始まります。そのような日に、私の好きな言葉を1つ紹介したいと思います。藤井隆「ナダカナダ」をBGMに起用した大塚製薬株式会社のCMに出てきた印象的な言葉がありました。

「やりたいこと、やろっ。」

何事もやらずに後悔するよりも、自分を信じて一步を踏み出そう。失敗はあったとしても、思い描く自分の夢や希望に向かって、そこからまた前に進んでみよう。そうすれば応援してくれる人も、きっといるはずだから。そんな今日を生きる全ての人に、「やりたいことを、やろ！」を伝えるメッセージです。様々な「やりたいこと」挑戦するには前向きな原動力が必要です。一步前に踏み出す勇気がきっと子どもたちの未来を変えていくと思います。あきらめるより先に「やってみよう」を大切に前へ進んでほしいと思います。学校では教職員一丸となって子どもたちの「やりたいこと」をサポートしていきます。

3学期は1年間の中で1番短い学期ではありますが、子どもたちがいろいろなことに挑戦して、さらに力をつけ、たくましく、しなやかに、ぐんぐん成長できるよう支援していきたいと思います。

子どもたちが学校で力を発揮できるよう、毎日支え、学校へ送り出して下さる保護者の皆さま、子どもたちの登下校をあたたく見守って下さる見守り隊の皆さまをはじめ地域の皆さま、PTA、おやじの会の皆さま、今年もかわらぬご理解とお力添えをいただきますよう、どうぞよろしくお願いします。

## インフルエンザ予防

寒さが一段と厳しくなり、インフルエンザが猛威を振るう時期になりました。氷野小学校でも2学期末には欠席者が多数出ていました。学校では「こまめな手洗い、うがい、換気」を励行しています。ご家庭でもご配慮いただきますようお願いいたします。

また、発熱や咳などの症状が現れましたら早めに医療機関を受診いただくとともに登校を控えていただくようご協力ください。

# 学校教育アンケート 集計結果について

12月に実施させていただきました「学校教育自己診断アンケート」では、お忙しい中ご協力いただきありがとうございました。集計結果について裏面にてお知らせします。

## <保護者アンケート結果より>

「よくあてはまる、あてはまる」とご回答いただいた割合(%)です。(回収率 77%)

	項 目	R6	R7
1	子どもは学校へ行くのを楽しみにしている	87%	85%
2	子どもは、授業が分かりやすいと言っている	90%	92%
3	授業でタブレット端末を活用することで、授業が分かりやすい	87%	87%
4	学校は教育方針や教育内容を分かりやすく伝えている	87%	90%
5	先生は、子どもに基礎的な学力を付けている	93%	94%
6	先生は、子どもを理解している	85%	91%
7	決まりを守る態度を育てている	92%	95%
8	学校の様子や学習内容等を、懇談会や学校便り、学年便り、ホームページ等で知ることができる	96%	99%
9	学校は、家庭への連絡を必要に応じて行っている	92%	93%
10	学校は、保護者の相談に応じている	94%	95%
11	授業参観や懇談会の回数や日程は適当である	95%	93%
12	地震や台風等災害への対応について、知らされている	98%	100%
13	学校は、保護者や地域の人に授業や行事を公開する機会を設けている	96%	95%
14	学校の施設、設備は学習環境面で満足できる	88%	92%

## アンケート結果より

今年度も働き方改革を推進するとともに、子どもたちの学力向上を見据えながら学校行事を『精選』してきました。学校・家庭・地域が一体となり関係を深めさせていただいたことが全体を通じてほぼ90%以上の非常に高い水準で評価していただいたことにつながり、教職員一同うれしく思っています。学力・規範意識・学校や担任によるフォロー体制関係については、担任はもとより支援コーディネーターや養護教諭、スクールソーシャルワーカー・スクールカウンセラーを含めた組織体制が浸透してきている成果だと感じます。

また、ICT機器をはじめとする「学習面」において、本校が大阪府事業「情報活用能力をはぐくむモデル校」として取り組み、その成果を児童・保護者の皆様にも評価していただいたことはとてもうれしいことであります。

一方、課題としては【設問1】がわずかではありますが減少してしまったことです。児童対象とした別の調査では94%の肯定的な回答を得ているものの、この設問については100%を目指さなければいけないと思っております。学校は「楽しいところ」とであるとともに「新しい発見があるところ」「自分をわかってもらえるところ」でなくてはならない場所であるべきです。今一度、全教職員がこのことを肝に銘じ、温かな眼差しで子どもたちとの関わりを大切にしていこう努めていきたいと思っております。